

○事務局

第6回の青山剛昌ふるさと館あり方検討委員会をはじめます。(会長あいさつ)

○蕘会長

皆さんのおかげで、提言書はこのような形でまとまっていたことを、感謝します。この提言書が、実際に、実行されることを、願っております。いろいろ皆さんと話した中で、青山剛昌ふるさと館が変わることは、この町にとっても、素晴らしいこと。たまたま去年の暮れ(12月29日頃)に読売新聞の一面を読んでいて、他の施設は抜いて青山剛昌ふるさと館の件だけが、記事に書いてあったので驚いた。今日が最後の委員会になりますが、この提言書に賛同していただけることをお願いして、私の挨拶とさせていただきます。

○事務局

会名簿がありますが、吉村、藤木、清水、田中、角田委員が、欠席ということで伺っている。3番の報告事項に入りたいと思います。事務局の方から3点ほど報告させていただきます。(資料確認)

(報告1:新聞記事説明)

各地の観光施設を活用した観光振興の取り組みを国が支援するための新法を国会に提出するという記事。全国数多くある観光施設の例として、この青山剛昌ふるさと館について記載されております。それだけ今ふるさと館が注目されていることだと思います。

(報告2:町民無料デーの取り組みについて)

会議での議論の中で「町民を対象に、無料招待する機会があっては良いのではないか」というようなご意見があったため1月14日から1週間、町民の方を対象に無料入館デーという形で、無料入館ができる日を設けて、実施しました。1週間で333名、こられました。平日昼間は、年配の方が非常に多く、初めてという方も非常に多かったです。楽しかったという声も聞いている。土日は、ほとんど親子だった。孫を連れて親子3代で入館された方もおられた。全体的に初めての方が多かった。今後どうしていくかを含めて、やってみたいと考えている。平日の夕方は、学校帰りの小学生とその親が多かった。期間終了後もまだ無料ではありませんかと、割引ありませんかなど来られた方も居た。この辺も参考にして今後の検討に繋げていきたい。男性は1人が多い。女性はグループで来られる。ある人は、「外国の人としゃべるかやってきた」と言う年配の方も居た。自分の語学力か何か確かめたくて来られた方も居たため、語学を学んでおられる年配の方の可能性も感じた。概ね、町民の方には良い反応だった反応だったと考えている。引き続きこういう機会を今後来年度に向けても、機会を見ながら、実施したいと考えている。

(報告3:横手市増田漫画美術館の現地視察)

(資料3ページから)こちらの美術館は、漫画の原画の収蔵保存に大変力を入れておられるということで吉村委員に紹介いただいた。(資料5ページ)施設内の写真を掲載。(資料の11、12ページ)施設内に「マンガの蔵展示室」という、原画を保存・収蔵管理するコーナーがある。ここでは、一連の原画のアーカイブ作業をガラス越しに見学することができる。(右上の写真)原画の保存用の中性子箱が並んでいた。(左下の写真)実際にそのアーカイブ作業を行っている様子を、そのガラス越しに見学することができた。原画の劣化を防ぐために、原画と原画の間に中性紙を挟んだりする作業などを、実際に見ることができた。(ページの下)展示室内には、デジタル化した原画をタッチパネルで閲覧できるシステムが、2台設置されていた。原画は大変高解像度でデジタル化されており、拡大していくとかなりの大きさになり、細部まで見るができる。(12ページの上)(左側の写真)引き出しつきのキャビネットに集合された原画。引き出しを上から順にスライドしていくと、1話分の原画をすべて見るできるようになっている。(右側の写真)アーカイブルームを撮った写真。スタッフが実際にデータ入力したり、原画をスキャンしてしてデジタル化する作業などを、ガラス越しに見ることができた。こちらの美術館は、漫画の原画の保存・収蔵に力を入れられているだけあって、原画が丁寧に扱われていることが印象的だった。本来ならばこのぐらいきちんとすべきものを、青山剛昌ふるさと館は収蔵していると感じた。今後ふるさと館の設備などを具体的に検討していく段階になった際には、横手市増田まんが美術館の取り組みを参考にできるのではないかと。(増田まんが美術館は)平成29年から平成31年の4月末までリニューアル工事を行っていた。令和1年

の5月1日にリニューアルオープンし、12月までの間に約12万人が訪れたとのこと。横手駅からは、バスで40分、バス停から徒歩10分程度。バスの本数も大変少ないと感じた。施設には大きな駐車場があるので、大半の方は車で訪れられていると思われる。大きなショッピングモールはないが、近くには昔ながらの町並みが残っている。施設を作る際に、議会も含めてかなり反対がある中で、やっとここまでできたとのこと。想定以上に成功しているという状況。

○竹歳委員

無料入館デーについて1週間で333人の来館者というのは、事務局(町)としてはこれは多い・少ないどのように判断されるのか。青山剛昌ふるさと館が今後、これだけの横手市と同じような建物ができるようなイメージであれば、この333人というのが出てくる人数は本当に北栄町民がこれを受け入れられるのか疑問。これだけの大きな建物を建てて、これだけの認知度しかないというのは不安。

○事務局

不安要素については理解できる。ただ、333人という数字を日計算すると、1日50人弱ぐらいの数字になる。ふるさと館は、今の観光客の少ない時期の平日でも、200人入館している。動機づけはあったにしても、それだけの人数であるとすれば、かなりの割合であり、今回1週間という短期間、町報の中での告知程度であったこともあるので、次回実施する際にはもう少し告知の仕方を考えたいと思う。引き続きこういう機会を設けながら、ふるさと館に対して応援していただくような立場、協力していただくような住民さんというものを、助成していきたいと考えている。

○山岡委員

4回の議論の中でもたびたび地元で愛される、地元の人にしっかり支持される、ふるさと館でなければならぬという話が出てきた。来月には町長あてに提言書が提出される。これからは完成する前や、完成したあとの内覧会なども含めて、我が町の誇りの一つである観光拠点であることをPRできるように、皆に愛される仕掛けをどういうふうに戦略的に、作っていくかスケジュール化するかということが大事なポイントだと思う。15000人近くの町民や、出身者で県外に出ている人も含めて、全員が完成するまでもワクワク感を持ってそれを迎え、できた後も我が町の誇りある施設として、みんなに愛されるための仕掛けをどう作っていくか、そういうチャンスをどう作るかということが大事。町の予算化の中にしっかり含めて、広報と案内と、それから実施、感想も含めてPRするべき。その波及効果が相乗的に広がっていくようにしてチャンスを活かすことを真剣に考えてもらいたい。

○事務局

今回の数について、多いか少ないかというところは、決して多くも少なくもないと思われる。この会の中で4回議論していただいた通りで、いろんな課題が出てきた。その中でやはり町民さんへの理解を深めていただく、それがやっぱり事業を進めていく第一歩であるということが委員の皆さんの共通認識であると思っている。そういったところで今回、無料入館デーをさせていただいたので今後も続けたい。また、来年度の予算でも、吉村委員に依頼し漫画アニメの文化についての講演等も開いていただくようなことも、今、検討しており、理解を深めていただきながら進めていきたいなというふうには考えている。

○森田オブザーバー

次回の実施の際には、「また次は何日にやりますよ」ということも、あわせて宣伝しておいたら良いのでは。

○事務局

また今回館内ガイドというのも実施し、57人に参加していただいた。たくさんの方が参加していただけるような取り組みになればと考えている。

○澤田委員

この333人入館があったわけだが、アンケート等は実施していないのか。

○事務局

今回は人数だけの調査のみ。

○澤田委員

今後のことを考えれば、地元で愛されるミュージアムするのであれば、地元の意見も大事にしない

といけないし、愛されるミュージアムになるためには、事前にいろんなことをしておかないといけない。無料デーにどういうことが行われるのか、ということをもっとPRしないといけないと思う。そういった仕掛けとあわせて、何が良かったとか、逆にこういうところが良くなかったとか、そういった意見はそういうことを聞いて、それを反映するようにするっていうことも大事。良かったところはPRの材料に使える。そういった継続的な無料デーにされたらどうか。

○会長

始まってからオープンしました、では遅い。役場前に看板を出すことも一つの手だし、それと学校に、宣伝してもらうことも大事。生徒に工事現場でも見せてあげると、すごく喜ぶ。オープン前にはそういったイベントも考えてほしい。特別な広報部ぐらい必要だと思う。民間の人の助けも必要かもしれないけども、町でできるのであれば声を出し合って、オープンまでにたくさんの人に来てもらうキャンペーンを、やって欲しいなと思う。

○事務局

ぜひ参考にさせていただきたい。

(4:議事)

会長が司会進行(提言書(案)について)(別冊資料)(前回の会議の意見を踏まえて、追加修正した部分のみ事務局説明)

○澤田委員

(5 ページ)施設の現状と課題について、「収蔵品のほか、バックヤードに、収蔵品の保存スペースが皆無である」とあるが、皆無ではないので、現状に合わせて言及しても良いのでは。「収蔵保存はできてない」と言い切らなくても良いのでは。

○山岡委員

自分も視察に行って収蔵・保管の重要性を知った。ある意味では人類の文化的遺産をどう守るかっていうのが大きな問題だと認識した。議会がそこまで認識しているとは正直思えない。そうすると、収蔵ということが重要であることを相当きちんと文書に謳っておかないと、軽視されることになりかねない。ここは簡単に収めないで、もう少し分量含めて現状がいかにか危機的な問題かってこともきちっとうたって、この他県の事例も「参考」や「後述〇ページ」など、引用でもかまわないので強調した方が良い。

○後藤委員

収蔵・保管について、現状できてないことは事実。横手市に視察に行って、収蔵を見たとき「こんなに大切に保存されてるんだ」と感動した。自分がもし作家だったらこういうところに保存してもらえたら嬉しいだろうなと感じた。「現状できる限りのことをやっている」と書くと、「今できてるからいいんじゃないか」と思われるのではないか。そのため、あえて逆に今は全然できていないということを強調するべきだと思う。

○澤田委員

貴重な原画と言いつつも、貴重な扱いをしていない。それはきちんと書いたほうが良い。

○山柘副会長

災害を想定したことも考えておくほうが良い。

○会長

津波の問題もある。最悪の場合も考慮して、提言書の中に入れても良いと思う。

○事務局

現状と課題のところについては、できている／できていないというその辺の議論でどちらがいかとところをもう少し議論していただければ。山岡委員の方からもっとボリューム感をという意見があったが、課題は明示されており、やること等の中で、このような収蔵エリアの必要性、専門員の必要性の話は出てくる。提言内容を行うにあたっては、予算化の話にもなってくるため、その部分が重要であることとこの保存文化文化財の保存に関しては、議会だけではなく住民含めて、まだまだ理解が得られていない部分。理解していただく努力は引き続き必要だということは感じている。実際に町の文化施設についても、温度湿度両方の管理ができていない施設がない。作成していただいている提言書のものでできれば、町として初めてそういう施設になると思っている。

()

中性紙、中性紙箱を使用して適切に保管する必要性を具体的に機能のところにも書いたほうがいい。

○事務局

構わない。来年度予算においては、中性紙箱と中性紙を予算要求しているところ。

○山柘副会長

横手でどのくらいの予算だったか。

○事務局

約8.5億と伺っている。それまでも、マンガミュージアムとしてやってこられた実績はある。8億ちよいということだが、実際には建屋はあった状態。ちなみにふるさと館が2億弱程度。

○山岡委員

収蔵の問題は、文章で100%伝えるのは難しい。議長なり議会事務局の判断になると思うが、議会が判断するときも、視察に行かれて見ない限り実際必要性はわからないと思われる。だけど、うたっておくところはうたっておかないといけない。多少の改修などがあっても、基本的に館は続いていく。後世に誇れるものにしなればいけない。理解を得るのは相当難しいと思われるので、文章にも残して、なおかつ工夫しながら積み重ねていくべきだと思う。

○事務局

提言書提出後、もしそういった時には今言われたような場所を推薦させていただく。そういったところで理解を深めていただくような努力したい。文章としては、今のものに何か付け加えるとすれば、どういった点があったら良いか。資料として視察研修先の概要があるが、保存保管のところ、参考ということで本文の中に入れ込んだ方がいいのかということだが、本文の方に入れ込んだ方がいいということで問題ないか。「皆無である」という部分については「不足している」に変更させてもらう。

○森田オブザーバー

(6ページ)コンセプトに込めた思いの4行目。「常に展示されているのは北栄町だけである」について、空港もあるが、書きぶりはお任せしたい。

○事務局

内容は変えず、修正したい。

○山岡委員

同じくコンセプトにこめた思いのところ。青山剛昌ふるさと館を訪れた人が夢と希望を持つことのできる施設とするとあるが、「夢と希望を持つことができる」のは後半にもある。どういう「夢と希望」なのか。青山先生と同じように自分もマンガ家になろうと夢を持つこともたちをイメージしているのか。抽象的でわかりにくいのでは。

○事務局

もちろん、青山先生と同じようにマンガ家というものも含まれているが、特に北栄町の子どもたちで言うと、こんな田舎にいて無理じゃないかということもある。そういう部分で、同じ境遇、同じ北栄町からこんな世界的にも有名な人が出ているということを知って、理解することによって、自分の夢に向かって頑張りたい、頑張ってもらいたいという思いがここには込められていると考えている。

○山岡委員

なるかならないとかってそういうストレートの問題だけじゃなくて、出てくればいいなと、そういう効果が期待するというで良いか。

○事務局

はい。一つの作品がすごく綺麗美しいだけではなく、そこから感じられる作者さんの思いだったりいろんなものに触れることによっての、ことだと思っておりますので、単純に漫画家になればいいということではなくって、そこから感じ取って将来の糧にして欲しい、目標にして欲しいということだと思っている。

○澤田委員

もともとミュージアムの根本。感性育むとか、感性を養うというフレーズが入ればそれでそれでいいと

思う。青山先生がどうやって感性を養ったのかっていうような部分が、展示だけでは意味がない。そういうような部分が展示に反映されることがこのミュージアムのコンセプトであり、テーマであると思う。

○事務局

わかりました。追加します。

○山岡委員

町民の皆さんも議会、地域の皆さんも、マンガミュージアムだから子どものためのミュージアムだと思っている人が結構いるのではないかと想像する。資料のアンケートには年代別ものもあったほうが良い。

○事務局

(夏にとったアンケートによると)年代は40代以下が多い。作品の始まった時期、作品に親しんだ人の年代が関係していると思われる。

○山岡委員

国の町の財政と結びつけて心配する人も出てくる。こういった年代がむしろ主流であること、お金落としてももらえることも伝えるべき。子どもたちの感性を磨いて夢と希望を与えるということは大事なことだが、30代40代で一番お金が使えるとき、お金落とせる世代になってきて、そういう人たちは世界からたくさん来るという話が必要。

○事務局

資料のアンケートは抜粋でしたが、年代別のデータも追加しておく。修正したものをメールで内容確認していただく。18日に提言書は提出させていただきます。また、経済効果のデータも資料に追加しておく。

○澤田委員

付け加えて、ここは大栄町と、北条町が合併したので、北条の人が反対するのではないかという危惧がある。そういうデータ取ってないのか。

○事務局

ない。このアンケートに関して言えば、おそらく分けられると思う。時間が取れるかどうかかわからないが、そういったことが出てくる可能性も含めたところで見たいと思う。修正し、最終的なものを送らせていただきたい。提言書は2月18日の日に、蕨会長と山柘副会長の方から、町長の方に提言書を提出していただく。(イベントの情報紹介)、(補足説明)今の青山剛昌ふるさと館の入館者の現状ですけども、2月よ7日か8日には20万人に達する。2月8日に提言書の方出させていただきます。あと町の方で、町長の方でどう判断されて次どうするかっていうことになりますが提言書に沿った形で進むようなことになれば、これまでの経緯も含めて知っておられる皆さんにまた、ここへかけさせていただきたいなというふうには思っておりますので、またぜひご協力の方よろしく願いいたします。

○蕨会長

貴重なご意見を反映させた形の提言書を提出させていただきます。1年間本当にありがとうございました。